

安倍首相に抗議する！

(後藤さん真のジャーナリズムをありがとう 安らかにお眠り下さい)

日本人フリージャーナリス後藤健二氏と、同じく日本人でシリア入りしていた湯川遥菜氏が過激派組織 I S (イスラム国) によって殺害された。この二人の邦人の突然の訃報は、多くの日本人の心に慟哭と衝撃を与えた。これは単に「イスラム原理主義思想」とか「テロ」という視点だけでは、到底解釈しきれない要素が含まれている。そしてこの集団の残虐性からは、ただ得体のしれないモンスターとしか例えようがない。

私たちはこの人質事件が発覚して以来、ただ狼狽するのみであり無力でしかなかった。最悪の結末となった今、せめてもの哀悼をささげようと思う。そして一つだけ明確にしておきたい。二人に直接手をかけたのは確かにイスラム国であった。しかしその「殺害をイスラム国に指図したのは安倍晋三である」と言っても過言ではない。

安倍晋三は日本の首相として、1月15日から中東諸国を訪問した。イスラエルでは日の丸とイスラエル国旗を背に、「イスラエルと共にテロに屈しない姿勢」をアピールした。札束をみやげに十字軍入りを全世界に発信したのだ。この行為がはるか紀元前からイスラエルと因縁の歴史を繰り返してきた「アラブの諸国」に対して、どれほどのストレスを与えたのだろうか？またイスラム国にも、あまりにも無神経すぎる。

しかも世界中が非難した昨夏のイスラエル軍によるガザ地区への大規模空爆殺戮から僅か半年後のこの時期に。さらに「イスラム国対策と表明」しての2億ドルの援助。そしてこれは後から知ることになるが、これらがイスラム国に二人が拉致されていることを知ったうえでの行為であったとは、驚愕すべき事実である。イスラム国からすれば「宣戦布告」であり「安倍は人質を見捨てた」とみなすのは当然のことであろう。まさに安倍の非人道性は、イスラム国にも劣らない。再度明らかにする。安倍晋三が後藤氏を殺害したのである。

その非人道性の極みは、後藤氏の無念の死をも利用し、今国会では自衛隊の海外派遣の恒久法を目論んでいる点にある。これが「積極的平和主義」の正体である。平和を願っていたジャーナリストの命がこんな人間によって、翻弄されたかと思うと死んでも死にきれない。

そして最もの心配は、日本の今の風潮において既に「後藤氏の殺害事実(安倍の責任)が風化されている」ということである。インターネット上では、後藤氏の身上を批判したものすら出回っている。当初野党議員がSNSにより、安倍首相を批判したものの、その後は、党自らが規制をかけてしまっている。国会、メディア、知識人、そして労働組合も何か口をつぐんでいるように思えてならない。だから明らかにする。後藤氏は安倍首相によって殺害されたのである。

福島第一原発事故放射能汚染問題しかり、沖縄米軍基地問題しかり、オスプレイ問題しかり、TPP問題しかり、等々すべてが「まやかしと偽りで塗り固められた」ものばかりである。安倍晋三を首相とする自公政権、この「嘘つき詐欺集団」によって、この日本は、冗談などではなく間違いなく崩壊に向かっているとしか思えない。

人質事件の情報提供国トルコ政府が詳細を明らかにしたにも関わらず、安倍は自らの失態をひた隠すため秘密保護法によって、一切を葬り去ろうとしている。そんなことは絶対に許されないし許さない。

後藤健二さんの死を決して無駄にさせないためにも、何度でも言わせてもらう。

「後藤健二さんをイスラム国に殺害させたのは、日本の首相 安倍晋三なのである」